

講師 **カレル・フィアラ**（福井県文書館古典文学顧問）

『古事記』は、律令国家以前の日本人が生きた世界の神話も、歴史もバランスの取れた形で語っています。これは当時、人類としての知の観点からも日本人固有の関心事としても、適切な配分だったと言えます。本講座ではヤマトの言語文化に注目しながら、古代人のまなざしを借りて、彼らに見えた世界を復元してみたいと思います。

第1回	令和元年	5月25日 土	13:30~15:00
第2回		6月15日 土	”
第3回		7月20日 土	”
第4回		8月24日 土	”
第5回		9月8日 日	”
第6回		11月9日 土	”
第7回		11月30日 土	”
第8回		12月14日 土	”
第9回	令和2年	1月18日 土	”
第10回		2月15日 土	”
第11回		3月21日 土	”

会場は、すべて福井県文書館研修室

\*各定員 40 名。電話、Fax、メール等で事前に申し込んでください。

\*『口語訳古事記 神代篇・人代篇』

（訳・注釈 三浦佑之、文春文庫）

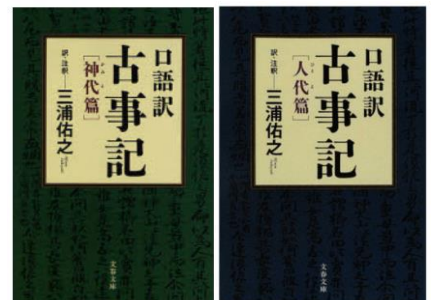
定価 630円・710円

ISBN978-4-16-772501-3（神代篇）

ISBN978-4-16-772502-0（人代篇）

を用意して、受講してください。

（受講無料）



フィアラ先生の

古典文学  
ゼミナール 『古事記』  
を読む



「古事記 上」(国立公文書館蔵)